

# 栃木医療センター 広報誌

No.45 2021 April

理 念  
信 頼 貢 献 協 働



## Contents

- 新院長挨拶・新副院長挨拶 ..... 1・2
- 連携医紹介（岡村整形外科） ..... 6
- 病棟紹介（4階病棟） ..... 3
- 日常でできる身近な感染防止対策／  
交通のご案内 ..... 裏表紙
- 部門紹介（放射線科） ..... 4
- 診療科紹介（消化器内科） ..... 5

独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター

## 新院長挨拶



院長 田村 明彦

この4月より院長を拝命いたしました。

思い返せば栃木県との縁は深く、1990年に済生会宇都宮病院で研修医生活を送り、大学に戻った後も数年診療の手伝いに来ていました。2000年から3年半、那須赤十字病院にて一般外科と救急に従事しました。一時栃木を離れましたが、2005年9月に栃木病院外科医長として赴任しました。旧知の方々が多くいろいろとお世話になり感謝しています。以後、臨床とともに、病院全体の診療体制向上に取り組んできました。電子カルテや新病棟などハード面の整備と、行政と連携し感染対策・救急医療・災害対応を行ってきました。

昨年春からの新型コロナウイルスの流行では、日本中あらゆる分野で通常業務を縮小せざるをえない状況でした。医療も例外ではなく、地域医療で重要な脳卒中、心筋梗塞、救急、がん診療にも影響が出ています。コロナと通常診療の両立を図りながら、できるだけ早くコロナ前に近い状態まで戻せたらと思います。この10年で当院の診療体制は充実してきており、県や市と協力して、コロナ診療と対策では大きな役割を果たすことができました。次の波がいつ来るか予想は困難ですが、状況に迅速に対応して何とか乗り越えていくしかありません。

当院にとっても、外来棟の老朽化、人材確保、働き方改革など、その時その時で解決すべき課題が絶えることはありませんが、更なる前進・発展を目指していきたいと思っています。

皆様よろしくお願いいたします。



## 新副院長挨拶



副院長 石原 雅行

4月1日より副院長に就任いたしました石原雅行と申します。1997年に当院に赴任して、24年間脳神経外科医として栃木県の脳卒中医療に取り組んできました。もともと宇都宮出身で、55年前に『栃木医療センター』の前身である『国立栃木病院』で生まれました。当時の戸祭周辺は田園地帯で『戸祭田んぼ』と呼ばれており、昭和小学校に通っている頃には『水道山』『八幡山』とともに駆け回っていた地域です。手術をした患者さんから、退院の時に『先生がランドセルを引きずって歩いていた子供の頃を知っているよ』と言われてびっくりしたこともあります。生まれ故郷で医療を行うというのは、知り合いも多くやりがいがある反面、常に周囲から監視（笑）されているような緊張感もあります。

ところで、今『栃木医療センター』が最優先すべき事項はなんでしょうか。コロナ禍で立ち止まっている悲願の新外来棟建築はもちろんですが、ただ建物や設備を新しくするだけでなく良質な医療を効率的に行えるための新しい病院システムを構築することは必須でしょう。また、それを支える人材集めと育成も力を入れていかねばならないでしょう。一番重要なのは、地域包括ケアシステムの中での役割を明確にして地域医療連携を強化していくことで、これはコロナ禍であろうとなかろうと変わらないことだと思います。逆にこのような変化に富む逆風の時代だからこそ『今、栃木医療センターに求められている使命』を把握して実現していく実力が問われるのだと思います。過去にとらわれ必要な変革が先送りになったり、使命をないがしろにしてやりたい医療を優先し空回りすれば、地域医療構想のなかで消えゆく病院となるでしょう。病院の使命は地域のニーズが決定します。期待に応えるために、アンテナを高くして地域との連携をとり、田村新院長を支えて『栃木医療センター』を盛り立てていければと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



# 4 階 病 棟

看護師長 廣田 しのぶ

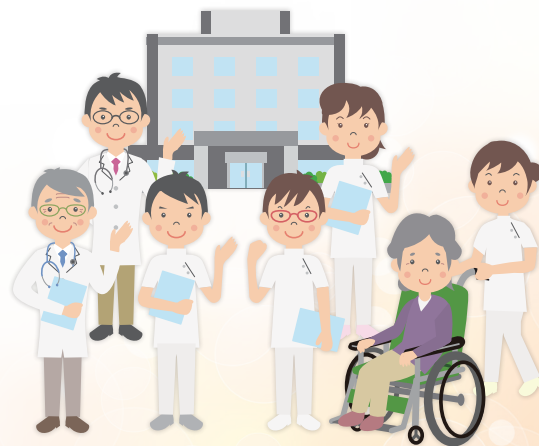
4階病棟は、患者さんを全人的にとらえて治療を行う総合内科と、消化器内科を基盤とした内科全般を受け入れている病棟です。患者さんの年齢層は30～90代と幅広く、主な検査や治療は内視鏡・心臓カテーテル検査や手術になります。また、在宅介護中の家族ケアとしてレスパイトも受け入れています。

4階病棟の強みは、スタッフの年齢層に幅があるところだと思っています。患者さんに寄り添った看護をするには、患者さんの思いを汲み取ったり、家族の気持ちを推しはかたり、察することができるようになることが大切です。それができる先輩が身近にすることで、看護部の理念である「人に寄り添い、思いに共感できる」看護師が育成されていると感じているからです。

高齢化にある現在、入院することで日常生活と違う環境になり足腰が弱ってしまった、今まで出来たことができなくなってしまった、という理由でもと居た場所へ帰ることが難しくなる場合があります。予定の検査入院などであれば短期間での退院となりますが、緊急入院となると原因精査するための検査が続き治療が終わり退院するまでに長期間を要することもあります。そのため、入院したことでこれまでの生活が変わってしまわないように、入院前と同じ状況でもと居た場所へ帰ることを目標に、医師や4階病棟スタッフだけでなくリハビリ担当者、MSWなど多職種でチームとなり支援しています。また、入院前の姿を把握し地域で支えてくださっている方々とも連携し、本人や家族の希望を取り入れながら支援できるようますます頑張っていきます。



※撮影のため、マスクを外しています。





# 放射線科のご紹介

診療放射線技師 富田 未侑

現在、当院の放射線科は常勤の専門医3名（画像診断部門1名、放射線治療部門2名）、診療放射線技師16名（女性技師2名）の体制のもと診療を行っています。

## 各部門について

### 単純X線検査

単純X線検査は、ごく微量のX線を身体にあてて身体を通過してきたX線を記録して画像にします。健康診断などの際によく行われる胸のX線撮影もこれに含まれます。他にも腹部・骨・関節・歯科領域など、多岐にわたる検査です。

### CT検査

X線を人体の周囲360°を回転させながら連続で照射し、体を透過してきたX線の強弱を検出器で収集することで、体の輪切りの画像や立体的な画像を得ることができます。当院では、大腸CTに力を入れており、研究会の立ち上げや認定資格を取得するなど精力的に活動しています。また、肺がん検診と内臓脂肪量測定検査（メタボ検診）も実施しています。

### MRI検査

MRIは強い磁場と電波を用いて人体のあらゆる部位を、いろいろな角度からの断面の写真を撮影することができます。放射線は使用しないので被曝の心配はありません。検査中は大きな音が鳴りますので、耳栓をしていただきます。

### 血管造影検査

血管造影検査は、カテーテルと呼ばれる細い管を目的の血管まで到達させ、造影剤を注入することによって血管の形態や血流を観察する検査です。目的の血管だけを描出することにより病気の診断、評価に役立ちます。また診断のみではなく、血管の狭くなった部位を拡げる血管拡張術、腫瘍を栄養している動脈に塞栓物質を注入して人為的に閉塞させる動脈塞栓術など、血管造影検査の手法を利用した血管内治療（IVR）も施行しています。

### マンモグラフィ

マンモグラフィとは乳房のX線検査のことです。乳房を直接機械で圧迫し撮影することによって小さな腫瘍や石灰化などを写し出すことができ、乳がんの早期発見にも役立っています。当院では女性のマンモグラフィ認定技師が検査を行っています。

### 放射線治療

当院の放射線治療では悪性腫瘍などに対する外照射を行っており、完全に治すことから痛みをとることまで幅広く活用されています。放射線治療は比較的侵襲性が低く身体への負担が少ないことが特徴です。また、当院ではアピアランスケア（がん治療に伴う外見の悩みへのケア）外来も行っています。

そのほか、X線透視検査や骨塩定量検査も行っています。

放射線科の各部門にはそれぞれプロフェッショナルがいますので、分からないことがあればお気軽にご相談ください😊



栃木医療センター消化器内科は、2019年度から5名の常勤医体制（全員が消化器病専門医および消化器内視鏡専門医、3名の肝臓専門医）となりました。さらに2021年度には、1名の消化器内科医が確保でき全員で6名体制になります。また、同時に内科と外科の枠を取り払い内視鏡センター化を行いました。そのお陰もあり、年々内視鏡件数は増加しております(2017年度 2894件、2018年度 3308件、2019年度 3750件)。我々は、経験豊富で確かな内視鏡技術を安全に苦しくなく患者さんに提供できるよう日々努力をしています。軽い鎮静剤の使用やお腹の張りを減らす『炭酸ガス送気システム』なども導入し、また COVID-19 感染対策も徹底しながら検査を行っています。(PowerPoint プレゼンテーション (hosp.go.jp))

消化管の診療では、通常の内視鏡検査にもNBIや拡大内視鏡を積極的に用いて、確実かつ迅速な診断に努めています。大腸内視鏡検査では、治療が必要な『ポリープ』などの病変を見つけ、その場で日帰り手術（内視鏡治療）を行っています。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）も導入しており、食道や胃に加え、最も高度な技術を要する大腸の『早期がん』に対するESDも多数行っております。

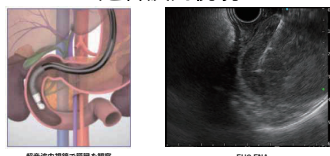
胆膵の診療では、総胆管結石や胆膵の悪性疾患に伴う悪性胆道閉塞など、胆膵の内視鏡検査や治療は外科と合同で施行し、リアルタイムに画像を検討しています。その診断を基に、最善の結果が得られるよう病態に合わせた適切な治療を行っています。最近では、コンベックス型超音波内視鏡を導入し、膵腫瘍に対して超音波内視鏡下針生検（EUS-FNA）も行えるようになりました。更なる診断精度の向上に寄与するものと考えております。また、高齢化社会に伴い抗血小板剤や抗凝固剤を内服している方や基礎疾患を有する方が増加しており、急性胆嚢炎に対する緊急手術が行えない患者さんも増えています。そのため、当院では経皮経肝胆嚢ドレナージ術よりもより生理的で非侵襲的な内視鏡的胆嚢ドレナージ術を積極的に行っております。

地域共同利用として、診療所や他病院からインターネット、電話での直接内視鏡予約も行っておりますのでご利用いただければ幸いです。詳しくは当院ホームページまたは地域医療連携室にご連絡ください。

治療内視鏡件数（2019年度）

内視鏡的止血術(上部)	55	大腸ポリープ切除	681
上部消化管ESD	41	EUS-FNA	26
下部消化管ESD	22		
総胆管結石治療	104		

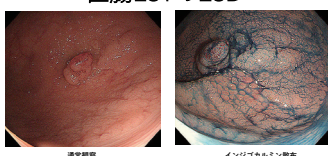
超音波内視鏡



超音波内視鏡で膵臓を観察

EUS-FNA

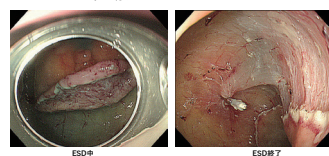
直腸LSTのESD



通常観察

インジゴカルミン染色

直腸LSTのESD



ESD中

ESD終了



## 岡村整形外科

院長 岡村 保成

岡村整形外科は、1984年7月開設の診療所です。整形外科専門の診療所で、変形性脊椎症（腰痛、頸部痛）、変形性関節症（股関節痛、膝関節痛）などの慢性疾患や、骨折・外傷などの急性疾患を中心に診察を行っています。日光市の中では小児整形検診や、学校医などの地域医療参加をしています。また、プロアイスホッケーチーム日光アイスバックスのチームドクターとして参加し、スポーツ外傷の診察にも力を入れております。

2004年より、前院長の父より引き継ぎ現在の体制に至ります。当院は、開業当初より地域に根差した医療を志しており、その理念は現在も引き続き継続しております。開業当時は有床診療所として診療を行っていましたが、現在は栃木医療センターに開放型病床を持ち、診療所では通常外来の業務のみを行っています。開放型病床とは、当院の医師と栃木医療センターが協力して、通院から入院、退院までの一貫した診療を行い、継続的に高度な医療、検査、手術などを受けていただくための専用の病床です。私自身が、2004年より栃木医療センターに勤務しており、入院治療に関しても担当しております。一風変わった診療体制ですが、患者様のメリットになる部分も大変多く、満足度の高い医療が提供できると考えております。

現在はコロナウイルスが感染流行する中、整形外科一般診療を行う地域の診療所としての機能を損なわないよう、より感染に留意し、日々の診察をしています。

様々な病院と日々連携して診察をする中、特に栃木医療センターとは20年弱、診察を共にしてきており理想の病診連携のシステムが築かれていると考えます。今後も、患者様にとって、より質の高い医療を提供していけるよう精進していきます。

### ご案内

診療科目 整形外科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○注	○	○	
午後 1:15 ~ 5:00						○	
リハビリテーション	月～金			土			
	午前 8:00～午後 1:00			午前 8:00～午後 5:00			

\*注) 木曜代診

\*月2回 木曜午前中に内科診療あり。詳しくは電話でご確認ください。



〒321-1261 日光市今市955-1

TEL 0288-22-5222



# ◎ 日常でできる身近な感染防止対策 ◎

## ★正しい手指衛生の方法（①石鹸流水での手洗い ②アルコールによる手指消毒）

- ＜方法＞ ①手洗いは流水で手を濡らし石けんで泡を立ててから手のひら、手の甲、指の間、親指、爪先、手首を30秒かけて擦り洗います。  
②アルコール消毒は最初に爪先をつけてまんべんなく消毒剤が乾燥するまで手全体に擦りこむ。

＜タイミング＞ 帰宅時、食事の前、咳やくしゃみが手に付いた時、手が汚れた時など



## ★正しいマスクの使用方法

- ＜着け方＞ 顔とマスクとの隙間がないように、鼻・頬・顎に合わせて鼻・口を覆う。  
＜着用中＞ マスク表面にはなるべく触れないようにする。  
会話をするときにはマスクを外さない。  
＜外し方＞ ゴムの部分を持って耳から外し、マスク本体に触れないように捨てる。

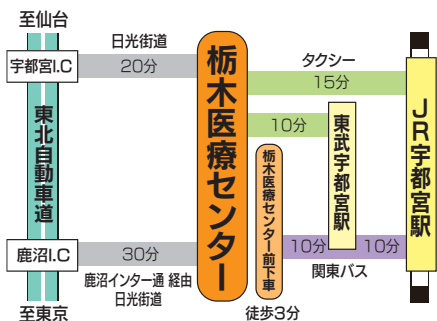


## ★咳エチケット

※外出する際にはマスクを着用する。

マスクを着用していない場合に咳・くしゃみをする際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、ほかの人から顔をそむけ1 m以上離れる。

# 交通のご案内



### 発行人

独立行政法人国立病院機構  
栃木医療センター

院長 田村 明彦

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL. 028-622-5241

FAX. 028-625-2718

URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

